

- ▶ 本県では、本格的な利用期を迎えた人工林資源の有効活用と、森林の有する公益的な機能の発揮のための森林整備の推進が求められており、林業就業者の確保と育成が課題となっている。
- ▶ そこで、県立農業大学校を農林大学校に改称した上で森林学科を設置して2年間の専門教育を行い、林業の現場で即戦力となる高度な知識や技術を備え、林業経営体の中核を担う人材の育成を行うこととした。
- ▶ 令和5年度は第2期生を迎え入れて専門教育を行うとともに、令和6年度の学生募集を行った。

□ 事業内容

山梨県立農林大学校の森林学科運営

- 学校運営
- 実習機材等の備品購入
- 学科のPRと学生募集

【事業費】 54,493千円（うち譲与税43,261千円）

【実績】 ・授業・実習経費、実習助手等人件費、校舎管理経費等
 ・実習用測量機材、チェーンソー等
 ・学校案内パンフレット、ポスター、リーフレット作成

□ 取組の背景

- ・人工林面積の約7割が本格的な利用期を迎えており、充実する森林資源の循環利用が求められている。
- ・一方で、県内の15歳から64歳の労働人口は、今後減少すると予測されており、これまで以上に担い手の確保と生産性の向上が課題となっている。
- ・更に、生産性の向上に向けては、高性能林業機械やICTを活用したスマート林業などに対応できる人材の育成が求められている。

□ 工夫・留意した点

- ・併設する山梨県森林総合研究所の実習林や試験研究設備等の既存設備を活用するとともに、最新の知見や研究成果を活かした専門教育を実施。
- ・伐倒練習機によるチェーンソーの反復練習やハーベスタシミュレータによる操作訓練などにより効果的に技術を習得。
- ・レーザーによる森林計測やドローンの操作など、スマート林業に関連する授業では、専門会社の技術者を招聘し、最新技術に触れる実習を実施。
- ・林業経営体と連携して実践的な実習を企画することにより、県内各地の多様な森林を体験。

□ 取組の効果

- ・令和5年度は19名の学生が1,200時間の専門教育を受け、林業の基礎知識と技術を習得し、現場に必要な17の資格を取得し、第1期生9名が県内で就職した。（森林組合6名、民間事業者2名、県職員1名）
- ・2年生は就職に向けて、インターンを2回実施した。
- ・令和6年度の学生募集では9名が受験し、うち7名が第三期生として入学。



授業風景



林業機械実習



森林調査実習

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：60,124千円	②私有林人工林面積（※1）：58,219ha
③人口（※2）：809,974人	④林業就業者数（※2）：794人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より